

**2023 年度 看護系学会等社会保険連合研究助成 研究報告要旨**

※1000 字程度

【タイトル】 全国訪問看護ステーションにおける看護師が実施する排便と浣腸を含む排便ケアの実態調査

【研究者名】 栗田愛, 吉田みつ子, 香春知永, 吉井紀子, 大久保暢子

**1. 目的**

訪問看護ステーション（以下、VNS）の排便ケアの実態を明らかにし、診療報酬改定申請の根拠となるデータを得ることを目的とした。

**2. 方法**

対象は全国から無作為抽出した 2,537 施設の VNS とし、2023 年 7～10 月に無記名式質問紙調査を実施した。調査項目は、回答時点での訪問看護利用者数の内訳とグリセリン浣腸（以下、GE）副反応の発生状況、GE や排便を実施する利用者個々の訪問看護と排便ケア内容とした。解析ソフト IMB SPSS Statistics 25 を用い、記述統計により集計した。研究は人間環境大学研究倫理審査委員会の承認を得てから実施した（承認番号：2023N-005）。

**3. 結果**

305 施設の VNS が回答した。利用者総数は 24,704 名であり、排便ケアは 7,336 名（29.7%）に実施されていた。直近 1 年間の GE による副反応は、気分不快・冷汗・顔面蒼白が 31 件、徐脈・血圧低下が 22 件、意識消失が 6 件、血尿が 2 件であった。

回答された GE や排便を実施する利用者 1,161 名のうち成人の利用者 1,129 名のデータを分析対象とした。利用者（ $77.9 \pm 15.7$  歳）の直近 1 週間の定期訪問看護回数は  $2.7 \pm 2.0$  回（うち排便ケア目的  $2.0 \pm 1.3$  回）であり、直近 1 回の直接訪問看護所要時間は  $58.0 \pm 17.5$  分（うち排便ケア  $28.2 \pm 15.3$  分）であり、実施された排便ケアは、排便 863 名（76.4%）、腹部マッサージ 791 名（70.1%）、GE が 742 名（65.7%）、下剤の使用の把握・投与・調整・指導 669 名（59.3%）、生活指導（食事・水分・運動等）663 名（58.7%）、排便時の腹部圧迫 621 名（55.0%）、肛門や直腸内刺激 391 名（34.6%）、温罨法 164 名（14.5%）、トイレ誘導 141 名（12.5%）、坐薬 95 名（8.4%）であった。GE と排便の組み合わせでは、両方実施 574 名（50.8%）、排便のみ 289 名（25.6%）、GE のみ 168 名（14.9%）であった。

**4. 考察**

先行研究では GE と排便の併用が GE による溶血等の危険性を高めると指摘されるが、GE と排便の併用は 50.8% であり、血尿も発生していたことから、GE による溶血を回避できる安全な排便ケアの提供が急務である。GE や排便が必要な排便機能低下者には、30 分程かけ、複数のケアを組み合わせることで排便を促す必要もあるため、GE による溶血を回避できる安全で適切な排便ケアの提供方法を示すケアマニュアルを確立し、普及する必要性が示唆された。

本研究は、2023 年看保連研究助成金ならびに日本看護技術学会の支援を受け、データ収集には訪問看護財団の協力を得て実施した。